

宣 言

昨年五月一日農民メーデーを断行して早くも一ヶ年にして吾等は新しく加入せる多数の農民諸君と共に第二回の農民メーデーを持つ事を絶大の喜びとし且つ誇りとするものである。近年農村が益々淋しくなり火の消えた如くなつて行くのは何故かと言ふに夫れは収入が少くなくなるのに比へて諸種の支拂が益々殖えて行く爲め多くの農民が喰えなくなつて行くが爲めである。其の罪は決して我々農民に非ずして世の中の組織が金や田地のある者に都合よく出来て居り奴はのらりくらりと遊んで居て贅澤が出来る様になつて居るからである。過去何百年の間吾々の先祖は強い者にはマカレラ泣く子と地頭には勝てぬと言ふアキラメ根性で暮して来た爲め遂に今日の如き不合理な状態の中に追ひ込まれたのだ。我々は生きて行く権利を持つて居る。我々はその権利を守る方

法を教へられた。夫れは即ち三人よりも五人十人よりも百人の人間が互に手をつなぎ力を合せて共同敵に打ち當つて最後の勝利へ突進する事である。見よ、工場や汽車や汽船に働いて居る労働者は總ゆる迫害に抗して團結し労働組合を組織して其の生存権を守つて居るではないか、そして我々農民の鐵腕を差しのべて協力一致を望んでゐる。我々農民は何としてか、此の點の労働者の好意ある指導を拒絶する事が出来ようぞ、即ち毎年五月一日全日本といはず全世界の労働者が一日廿四時間の仕事を休んで隊伍を組み旗を高く掲げのども張り裂ける許りの丈夫な聲でメーデー歌を歌つて大通りに濶歩するのは此の労働者農民無産階級解放の陣固めするメーデーであり敵陣を覆ひあがらせる巨陣となるが爲めである。

我々九州の農民は此のメーデーに際し廣く全國の労働者に温かき